

講演会テーマ

「激動の政治・経済展望

～これからの日本を考える～

講師 TBSテレビ報道局
／解説・専門記者室長

杉尾 秀哉氏

本稿は、平成25年7月16日につくば市で開催された筑波ふれあい倶楽部特別講演会の要旨を事務局にて取りまとめたものです。内容につきましては、杉尾氏の了承を得ております。

■ アベノミクスの評価 ■

円安株高の動きは安倍首相が総理になる前から始まっていました。市場関係者によると、日本の株価は不当に安く、円は不当に高かったので調整が働いてきたところに、安倍さんがアベノミクスをもって再登板し、日本銀行の黒田総裁が「バズーカ砲」とも言える政策を打ち、考えられる事は全部やった結果、持続しているのです。予想できなかったのは、金利の乱高下でした。

懸念材料は、アメリカの大幅金融緩和政策QE3はいつ終わるかということと、中国の「7月危機」と呼ばれるシャドーバンクの問題です。中国では金利よりも物価上昇率が高く、庶民の不満が高まり、中国版サブプライムローンと言われる最高で金利10%程度の商品が約130兆円も売れており、バブルがいつはじけてもおかしくないと言われています。

アベノミクスは評価が分かれています。2%のインフレターゲットは実現できるのでしょうか。アナリストの評価は、できる：2人、できない：35人、どちらとも言えない：4人でした。アベノミクスに混ざっている政策の一つがアソウノミクスです。金融緩和よりも財政支出を中心とする政策で、13兆円の補正予算を組んで国債を5兆円追加

発行し、現在、動き始めています。今後、景気が悪くなった場合、再び補正予算を組んで国債の追加発行が繰り返されると国債の信用がなくなり、悪い金利上昇になってしまいます。景気が良くなって税収が上昇しても、金利支払の方が多くなると財政破綻の引き金を引きかねません。ここで評価が分かれるのです。

また、アベノミクスは、デフレをインフレに持ち上げるためのインフレターゲットであり、戦後、この政策を実施したのは日本よりもはるかに経済規模の小さいニュージーランドだけという壮大な経済の実験です。イェール大学名誉教授の浜田宏一さんや安倍政権の経済ブレーンである静岡県立大学教授の本田悦朗さんもアベノミクスは実験だと認めており、やってみないとわからないが、成功する可能性はかなり高い

です。下を強くするカギは、①女性、②高齢者、③外国人の3点です。

■ 女性の積極活用が日本を救う ■■■■■■■■

特に女性について、安倍さんは、最近急に女性の積極活用を言い始めました。女性の活用とは何でしょうか。1999年にアメリカのゴールドマン・サックスという銀行が「ウーマノミクス」という、女性が将来の経済活動＝消費、労働をけん引し主役にならなければいけないという考え方を提唱しました。ただし、日本の女性には大きな問題が1点あり、それが女性の労働力率のM字カーブです。女性が出産を機に仕事を辞め、子どもに手がかからなくなると再び働き始めるため、真ん中の年齢の部分がへこみ、Mの字のように見えるのです。先進国では日本と韓国だけに見られ、欧米諸国はM字のくぼみはなく、フラットかむしろ盛り上がっています。M字のくぼみの部分の女性は能力が発揮されていない資源で、活用できるとGDPが数%上昇するという試算もあります。日本は女性の国会議員が少なく、企業の女性管理職は10%未満のものすごく少ない。女性管理職の比率は、アメリカは43%、フィリピンは50%以上で欧米諸国は軒並み30%以上あります。女性の活用を進めましょう、育児休暇等の福利厚生を進めましょうと、ただお題目を並べても企業は動かないので、女性管理職の割合の高い企業は、低い企業よりも利益率や生産性が高いという統計を示しています。女性が活躍している企業の業績が上がっていることを示せば企業も動くと考えているのです。



いずれは、女性を活用しても不足していく労働力を補うために、高齢者をどれくらい労働力として活用できるか、最終的には外国人労働力の活用も視野に入れなくてはなりません。

■ 見直すべき日本の底力 ■■■■■■■■

このようにいろいろな意味で閉そく感のある日本を外国のメディアはどう見ているのでしょうか。イギリスのエコノミストという雑誌が著した「2050年の世界」の中で、日本は人類が誰も見たことのない老人の国へと突き進む、平均年齢は52.7歳で、現在の先進国の中で最も悲惨な世界を迎えるとされています。

老人大国を乗り越える知恵を出すのは政治の力だと思いますが、民間の立場から、日本の産業の力、強さはすごいということを日本人は見直すべきです。震災直前に日本銀行の白川総裁が講演会で日本の強さを3つあげています。第一に、アジアは世界の成長センターであることです。2050年は世界経済の半分をアジア経済が占めるので、日本がアジアにいることが大きなチャンスとなります。第二に、日本の高度な技術力です。インフラ技術、環境技術も優秀で、アジア各国はこの技術を必要としています。ものづくりが優秀で、アップルのiPhone5の部品は日本製が大半を占めていますが、アップルは仕掛けづくり＝ことづくりが上手なのでiPhone5が売れて一番儲かるのはアップルです。日本はもう一度ものづくりの技術を生かした画期的なことづくりを進めなくてはなりません。かつて、ソニーがウォークマンによって、音楽の価値観を変え、良い音楽を良い音質で外で他のことをしながら楽しむという新しい価値観を提供したようなことです。第三に、高齢化社会への対応力です。医療・介護のハード・ソフトのノウハウやシステムは、これからアジア各国に求められます。中国、韓国の高齢化が進む時がビジネスチャンスです。日本は課題先進国とされていますが、いち早く課題を克服することが次のビジネスチャンスになるのです。これが広い意味でのクールジャパンです。

また、日本人の強さがあります。震災時、世界中が日本人はなんと強く、規律と秩序を守り、忍耐力があつて冷静なのかと驚きました。茨城県も被害を受けました。日立市に行ったとき、観光協会の方に近々海開きをするが、まだ風評被害があつて、観光客が来てくれないので、朝ズバツ！で話をしてくださいと依頼されました。農作物の風評被害も残ります。日本は大変な目にあつたが日本人ならば克服できる、日本人は世界で尊敬されている、日本人は約束を守るからとお世辞ではなく言われています。

■ 地方の活性化 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■

日本の地方都市はものすごい勢いで人口が減少し、過疎化しています。つくば市は人口が増えています、茨城県全体では減少しています。他の地方の人口減少は茨城県の比ではありません。しかし、この状況乗り越えようとする首長や事業者がいます。富山市岩瀬地区では、造り酒屋の社長が私費を投じて北前船が寄港していた頃の古い街並みを再興し、しゃれた路面電車も運行され、観光地となって人が集まっています。長野県下條村は、公共工事は村が資材を貸出して村民が自ら実施し、役場職員を約30人に削減する財政健全化策によって浮いたお金で若者向けの村営アパートを建設し、教育費を高校入学まで無料にし、保育所の送迎も実施して若者を呼び込んだ結果、出生率が2.2まで上昇し、「奇跡の村」と呼ばれています。

元気な地方に共通するのは、自立心が強いことです。補助金や公共工事には頼らない、独立独歩で生きるという考え方が非常に強いのです。住民が主役になって自分たちで物事を進めています。また、地域の資源を最大限に生かしています。高知県馬路村はゆずを一大資源とし、年間売上は何10億円にのぼるとも言われています。徳島県上勝村は、身近な所にある紅葉した葉っぱ等を資源とし、つまものとして都市部の高級料亭等に卸しています。年収1千万円の高齢者もいます。自分たちの地域の資源を最大限に生かすことが大切です。その資源を活かし、若い人を中心に人と呼び



込んでいくことが重要です。

その点から、つくばは大学があつて、若い人がたくさんいて、自然があつて、観光資源がいっぱいある。何にも増してTXはものすごく速い。私は北関東が大好きで、花を見に夫婦で週末によく訪れます。まだまだ必要なことは、ブランディングと情報発信です。東京にかなり長く住んでいますが、北関東に花の名所が多いことを全く知りませんでした。電車の中ぶり広告で知ったのです。茨城県がメロンとクリの生産が日本一ということも知りませんでした。たくさん資源があるのに知らない人がたくさんいるので、ブランディングのための情報発信を進めていかなくてはなりません。

■ むすび ■■■■■■■■■■■■■■■■■■

ユニクロの柳井会長が数年前に、「成功は一日にして捨て去れ」という本を著しました。ユニクロは山口県宇部の小さな衣料品店から始まり、フリースで大成功しました。その成功体験を捨て去って走り、ヒートテックで大成功しました。その成功体験も捨て去ってまた走っている。そうやってユニクロはどんどん大きくなり、売上5~6兆円を目指しています。

成功体験が忘れられないため、そこから抜け出せない、なかなかリスクを取れない、冒険したくない状況で一部の産業が行き詰っているのなら、柳井さんのように成功体験を捨て去り、アベノミクスをきっかけとして、次に向かって走り出す転換期にきているのです。

(文責:筑波総研株式会社 主任研究員 國安 陽子)